

やまぐちっ子学力向上だより

第129号 R5.6.7

山口県教育庁義務教育課

ポイントは〇〇！～ミドルリーダーレベルアップ研修より～

5月25日（木）、30日（火）、6月2日（金）に国語科・算数科・数学科の文部科学省教科調査官を講師に迎えてミドルリーダーレベルアップ研修を実施しました。本号は、調査官の講義の中から、各教科指導の授業改善のポイントを抜粋してお伝えします。

【小学校国語科】 言葉を扱っている国語科は、いかに問題意識をもたせるかがポイント！



「言葉は、何となく読んだり書いたりすることができてしまう。だからこそ、どこで立ち止まらせて何を考えさせるのかを意識してほしい。」

「振り返りは、自分の学びを見つめること。国語科では、言語能力が身に付いたかを認識させたい。」

例) なぜ上手に書けたのか、どういう読み方をしたのか など

大塚健太郎先生

【中学校国語科】 「『Bと判断する状況』の想定」、「目標の共有」、「適切なフィードバック」がポイント！

「観点別学習状況の評価や評定を適切に行うためには、指導事項を基に『Bと判断する状況』を具体的に想定する必要がある。」

「子どもと目標を共有し、子ども自身が学習改善を図ることができるようなフィードバックを大切に。先生から、友達から等、工夫するとよい。」



鈴木太郎先生

【小学校算数科】 式の意味を説明させることがポイント！



「式の意味が説明できないと立式を間違えてしまう。問題文中の単語ではなく、キーとなる文章に着目して説明できるようにしてほしい。」

「子どもは、『正答かどうか』に関心をもつが、『なぜその答えになるのか』『説明ができるか』に関心をもつような子どもにしてほしい。」

笠井健一先生

【中学校数学科】 全員が追究する課題を明示するとともに、解決の見通しをもたせることがポイント！

「主体的な学びの実現に向け、生徒が粘り強く学習課題に取り組めるよう、問題を明示するとともに解決の見通しをもたせること。」

例) 「何が分かればよいか」「どんなことを示せばよいか」を見通す

「生徒一人ひとりのよい点や進捗状況の価値付け、個別の悩みやつまずきの対応など丁寧な支援により、個別最適な学びを充実させてほしい。」



水谷尚人先生